

【教育の現場】 平成16年11月4日 午前11:40~12:20

琴似小学校 児童：第5学年 3クラス、85名。

先生：約20名（全校研、出入りあり）

講師：油津 雄夫

サポート：板谷利久

【授業サポートの背景】

30時限の予定で進めておられる「総合的な学習『守ろう僕らの地球環境』」の中間発表（全校研）にあたり、児童の興味・理解を深め、アドバイスをするため、外部講師として参加した。

なお、当学習については 斉藤先生の呼びかけに応じて、春以来 打ち合わせを進めてきた。

【授業サポートの内容】

児童が7グループに分かれて研究した成果の中間発表を行い、これについて、講師が評価・コメントし、今後の学習方向にアドバイスを与えた。コーディネーターは斉藤先生が務められた。

(1) 子ども等の研究テーマ

- ① 生物種の絶滅危機（トキを題材として）
- ② 砂漠化
- ③ 空気の汚れ
- ④ 森林の破壊
- ⑤ 地球温暖化
- ⑥ ゴミ問題
- ⑦ オゾン層の破壊（フロン・ハロン）

(2) 講師は 発表に対して評価・コメントし、今後の研究が一層進められるように促した。

砂漠化・森林の破壊に関して、講師の体験から、中国・内モンゴルの厳しい現実と、「森林の復旧は条件の良い北海道から」を伝えた。

今後について、一人一人が「省エネ」「ゴミを買わない」などの行動を積極的にとることを奨め、研究としては、まとめやすい地球温暖化問題に絞り、校区の「屯田の森」でCO2吸収量の測定、環境家計簿の活用を提案した。

【感想】1 板谷：

児童達が調べた内容は その現象や原因についても詳細で大人顔負けのものもありました。

発表を聞いて感心していましたが、何か足りないのではと感じました。

どうも子ども等の発表は、新聞やニュース、インターネット上の話と何等変わらない。

子ども等の視点で地球環境の変化を語って欲しいと思いました。

たとえば、1)今年は例年になく物凄く暑い日が続いた。

2)どうしてだろうか。

3)これだけ暑いと北海道に棲んでいる生物がいなくなってしまうのではないだろうか。

4)原因は地球温暖化なのか、それとも違う原因か。

一方で、その対策については まだまとまっていないという中で、リサイクルや公共交通機関の利用推進など幅広い視点での発表がありました。これは児童達ができる範囲でまとめられていたと思います。

【感想】2 油津：

児童のすばらしい研究成果、堂々とした発表態度に感心しました。

現在の厳しい地球環境問題を引き起こした「大人の責任」を謝り、「改善に向けて、私ども大人ももっともっと努力しなければならないが、何よりも将来ある皆さんに期待する」ことを伝えることができよかった。 子供さん方のキラキラ輝く瞳に期待します。 以上